

1 学校教育目標

○よく考えて 進んでやりぬく子 ○あかるく強く たくましい子 ○みんな仲よく 助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○確かな学力と豊かな心、健やかな体をはぐくむ学校 ・学力を定着させる学校 ・豊かな人間性をはぐくむ学校 ・体力・運動能力を高める学校 ・家庭・地域・学校が協力し合う学校
○児童・生徒像	○自信とやる気があり進んで行動し、互いに認め合い高め合う児童 ・様々なことにチャレンジし、目標をもって努力して課題を解決しようとする児童 ・思いやりの心を持ち、友達と仲良く、元気に生活する児童 ・共に考え、共に学び、協働して高め合うことができる児童
○教師像	○子供に最善の教育を行うために、子供と共に自ら伸びようと努力し続ける教師 ・敬愛され、児童・保護者・地域に信頼される教師 ・自己研鑽に努力を惜しまない教師 ・教育の専門職としての力量と誇りをもつ教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

○児童について

明るく純粋な児童が多い。基本的な生活習慣・学習習慣に課題のある児童が多い。

○教師について

教職経験の少ない教師が半数近くを占める中、指導力向上は重要な課題である。またこうした課題は、他区から本校を2校目として異動してきた教師にも潜在する。

○保護者・地域について

授業参観等の参加率が低く、学校教育に対して無関心な保護者が多い。

<前年度の成果と課題>

重点的な取組事項－1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす。

重点的な取り組み事項－3 心の教育の推進 ○自他を尊重する気持ちと態度の育成をめざす。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業力の向上並びに学力の向上	○	○	○	○	○
3	幼保小中の連携	○	○	○	○	○
4	心の教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○ △●	
当該学年での学習内容の確実な定着		4月区調査年度末再調査とも通過率(国算2科)80%超		国語—84.9 算数—85.1 2科—85.5		国語は区平均を5.3P算数は区平均を3.5P上回る。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度◎ ○△ ●
継続	朝読書	全児童 国語	毎週 火水金 始業前 15分	【指導者体制】担任 【目的】読書の興味や読書習慣を身に付けさせる。	毎月1回、読書感想文やお薦めの読書を発表する。	低2500P 中5000P 高10000P	・毎月の感想文発表	授業の集中度が高まった。	○
一部新規	音読・朗読・群読	全児童 国語	隔週木 始業前 15分	【指導者体制】担任(学年) 【取り組みのねらい・目的】音声表現力の向上を図る。	・年1回発表の機会を設ける。	・発表会月1回 ・指導時間・・・ 毎月2回、年間20回	音楽・学芸発表会において、成果を発表する。	具体的な詩の暗唱は不十分。	○

継続	昼学習 (パワー アップタ イム)	全児童 国語 算数	毎週月 火木金 5時間 目前1 5分	【指導者体制】担任 【目的】学習内容の復習・ 確認を行う。	5月、12月、 2月の3回、 テストを実施	正答率80%	80%の児童が目標 を達成。	授業への集中度が高 まった。	○
継続	放課後補 習教室	全学年 国算正答 率70%未 満、宿題 未提出者	毎日	【指導者体制】担任+副担 【目的】学習内容の定着及 び家庭学習の習慣化。	小テスト 単元テスト 再テスト	テストで全員 が目標値を通 過する。	80%の児童が目標 を達成した。	補習の内容につい て、統一したもの を作成していくこと が望ましい。	○
継続	サマース クール	全学年 算数 各学年10 名程度。	夏休み 期間中 の10日 各日50 分	【指導者体制】担任+副担 【目的】演習を中心に個別 もしくは少人数指導。	夏休み終了 後、確認テス トの実施	夏休み終了後 のテストで全 員が目標値を 通過する。	80%の児童が目標 を達成した。	統一したものを作 成していくことが望 ましい。	△
一部新規	教師の指 導力向上	若手研 ML 研の実施 授業観察 アドバイス シート	若手 30回 ML 10回	【指導者体制】 ・若手教員研修(校長、主 幹教諭、主任教諭) ・ミドルリーダー研修(副 校長、主幹教諭) ・授業観察(校長、副校長) 【目的】授業力指導力向上	・授業観察後 の「アドバイ スシート」内 自己評価の確 認と評価	アドバイスシ ート自己評価 全項目B以上	自己評価項目の個人 の評価規準が異なる ため、全員の自己評 価B以上とはならな かった。	アドバイスシートに おいて改善点を明文 化し示すことによ り、課題が明確にな り、授業力向上に役 立った。 昨年度は達成不十分 であったミドルリー ダー研を定期的に行 うことができたこと は効果的であった。	◎

重点的な取組事項－2		授業力の向上並びに学力の向上			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度

当該学年での学習内容の確実な定着(足立区学力調査結果の通過率を高め、都及び国調査の平均値を超える。)	4月区調査一通過率(国算2科) 80% 年度末再調査—80%	国語—84.9 算数—85.1 2科—85.5	国語は区平均を5.3P 算数は区平均を3.5P 上回る。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
パワーアップタイム	・朝のパワーアップタイムに読書(火、水、金)毎と音読(集会のない木)を取り入れ、読書活動、表現活動の充実を図る。	・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し、段階的に定着を図っていく。また分析結果によって得られた方策を徹底して行い、その結果を検証し、改善し、実行していく。	・毎週火、水、金に読書、集会のない木に表現活動を毎回、取り入れることができた。	音読朗読は全校朝会での発表会の場は設けることができなかったが、音楽・学芸発表会において、積み上げた成果を全ての学年が発表することができた。	○
放課後補充指導・補習指導の充実	全学年 国語・算数の単元テストの正答率70%未満、宿題未提出者 原則会議のない日は毎日行う。(放課後16:20まで)	・全校体制で指導に取り組むとともに、分析結果によって得られた方策を徹底して行い、その結果を検証し、改善し、実行していく。	・「東京ベーシックドリル」「習熟度プリント」などの教材を効果的に活用することができた。	・宿題の補習になってしまふことが多く、次年度に向けての改善が必要である。	○
プレジデントタイムの実施	・一斉指導において個別指導が必要な児童への取り出し指導を管理職が行う。	・毎日、昼休みに校長及び副校長が指導する。 ・夏季休業中の補充教室において、各学年における下位層の児童を取り出し、管理職が指導を行う。	・夏季休業中は主に第2学年の児童を取り出して、基礎的基本的事項に関する指導を行った。昼のプレジデントタイムは、学芸音楽発表会やインフルエンザの影響で、開始時期が遅れてしまった。	効果的であった。	○
校内若手研修会、ミドルリーダー研修会の実施	若手研年間30回 年間ミドルリーダー研10回	・若手教員には教師としての指導法の基礎基本、指導案作成、教員としてのマナー等を、中堅教員には、各分掌でのリーダーシップ力育成、専門性の向上を目的とした研修会を実施し、指導力の向上を図る。	若手研修会は年度途中6月より、1年目研(校長担当)、2年目～6年目研(主幹教諭担当)の2系統に分け行った。また若手研の中に特別支援教育の推進の視点を織り交ぜ、児童のケース会議も取り入れた内容で行った。	昨年度は達成不十分であったミドルリーダー研を定期的に行うことができたことは効果的であった。	○

重点的な取組事項－3		幼保小中の連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。(今年度より鹿浜菜の花中ブロックでの連携を行う。)		・効果的な連携ができたとする教員100%	・年度末反省では効果的な連携ができたとする教員100%の結果が得られた。	新たな連携校ブロックで新鮮な成果を得ることができた。継続していく。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・準備委員会、小中交流会8回を実施し、各校1回ずつ授業研究、協議会を実施する。 ・校長間の情報交換を密にする(月1回) 	各教科の研究授業実施 <ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した教科、生活指導計画の見直し ・学校の状況について情報を提供する(学力調査結果概要や生活指導状況等) ・鹿浜菜の花中ブロックでの連携、交流を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、連携を深めていく。 	○
保育園との交流	全教員による保育園見学会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上の保育園児と低学年の交流事業 ・保育園への保護者会参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で保育園、学童の施設見学と園長との話し合いを実施 ・授業体験、公開授業、図書室見学、給食体験、体育的学芸的行事等への招待 ・年長保護者会での校長講話の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施することができた。 ・従来の交流に加えて、体育的行事への招待を行い、効果的であった。保育園児が小学校の校庭や体育に親しむ機会が生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前の情報交換をさらに密に行うようにしていく。 	○
教員同士と児童、生徒同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業：3回以上 ・夏季補充教室：10日間 ・部活動、授業体験：1回 ・中学校説明会：1回 ・あいさつ運動の実施 	出前授業：英語、算数等 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季補充教室：指名補習 ・部活動、授業体験：学年末考査中 ・中学校説明会：生徒会が来校 ・生徒会と連携したあいさつ運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の出前授業については実施することができなかったが、英語を含め英語以外の教科も中学校での授業体験を実施し交流を深めることができた。 ・あいさつ運動の実施は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様に交流を展開していく。 	○

重点的な取組事項－４		心の教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりの気持ちと態度の育成 規範意識の向上 (親切、思いやり、礼儀、規則の尊重、公德心)		児童アンケート結果の向上 ・「あいさつ、返事、くつそろえ」に関する調査、児童の肯定的な自己評価80%以上	児童アンケート結果の向上 ・思いやりの心 80% ・規範意識 92% ・礼儀 85%	児童の自主的な活動を重視し、「あいさつ、返事、靴そろえ」をスローガンに指導をし、自己肯定感の育成を意識して教育活動を行ってきた。家庭との連携を図りながらさらに、意識的に教育活動する必要がある。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育及び道徳の授業の充実	・道徳に関する研修会及び研究授業を3回以上実施する。(外部講師招聘) ・授業観察における道徳の授業を全教員が実施する。	・年間行事予定に校内研究日を設け、道徳の研修会を、年間3回以上行う。 ・授業観察時に各教員年間1回以上道徳を行い、校長より指導講評を受ける。	・道徳の研究授業、研修会を、年間2回(6月、12月)、外部講師による道徳授業地区公開講座時の授業観察と指導を行う。	・研究授業の際には、前都小道会長を講師に招き、指導講評をいただき研修を深めることができた。	◎
気持ちのよい挨拶の推進 規範意識の向上	・児童アンケートで、挨拶、規範意識に関する項目80%以上	・「あいさつ、返事、靴そろえ」を共通目標とし年間を通して指導する。 ・児童の挨拶運動を通年実施する。	・児童アンケート結果 思いやりの心80% 規範意識 92% 礼儀 85% ・PTA、地域と連携した挨拶運動の実施	・学校の中での挨拶は活性化したが、地域の中で、自分からすすんでとなると課題が見られる。今後さらに家庭・地域と連携し啓発していく。	○
交流活動の充実	・なかよし学級と普通学級の交流活動を実施(1学年1回) ・高野小特別支援学級と交流活動を実施(2回)	・なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を行う。 ・高野小学校と連携し、スポーツ、歌、ゲーム活動の交流を行う。	・なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を実施した。 ・高野小学校と連携し交流を行う活動を計画的に実施することができた。	・交流の仕方について工夫して、心と心の交流を目指す。	○

<p>伝統文化を大切にす る活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内俳句コンクール実施（年3回） ・環境カルタ大会、百人一首大会への参加 ・地域の伝統文化に関する出前授業を実施（1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に俳句活動作品作りを行う。 ・環境カルタ大会、百人一首大会に向けての練習の機会として校内大会を実施する。（参加希望者のみ） ・地域の伝統文化の保存に取り組んでいる方々と連携して授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、さらに本校の特色になるように取り組んでいく。 	
<p>地域や社会とのつながりや環境を大切に する活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において環境教育を実施（各1回以上） ・児童会等で環境活動及び地域や社会に貢献する活動実施（3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に中学年は足立区、東京都の環境について、社会科との合科で学ぶ。また5年生は鋸南、6年生は日光の自然へと視野を広げ、発達段階に合わせて取り組ませていく。 ・代表委員会、環境委員会等で「なかまプロジェクト」「校内ごみゼロウィーク」などの環境活動・社会貢献活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施することができた。環境委員会による環境活動を実施した。 ・鋸南自然教室は実施できず赤城での内容を変えての実施となった。鱒ヶ浦でのビーチコーミングは行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主的な活動になり、地域や社会とのつながりについて意識する教育活動になった。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 授業力の向上並びに学力の向上

- パワーアップタイムの充実
 - ・朝昼2回の実施の継続は効果的であった。(朝8時20分から40分、昼13時20分から35分)特に朝の読書は1時間目の導入がスムーズになり成果が見られた。また概ね月1回程度の音読・群読の時間を新規に導入した。昼のパワーアップタイムにおいて、課題分析に基づく系統的な学習課題を段階的に実施し、評価・改善していく必要がある。
- 放課後補充指導、補習指導の充実
 - ・「東京ベーシックドリル」「習熟度プリント」などを教材として活用するとともに、学力調査の結果について詳細を分析し、つまずきのある児童に対しての個別の指導を充実させた。他の学校行事との兼ね合いで実施できない時もあったことが課題である。行事予定及び校内時程の見直しをし、改善を図る。
- プレジデントタイムの実施
 - ・夏季休業中の補充教室からの取り出し指導及び昼休み～昼のパワーアップ(13時10分から45分)の指導に管理職が関わり、基礎学力の向上を図る。主に2年生を対象に実施したが、他の学年の児童をどのように取り込んでいくかが課題である。次年度は放課後補習の時間も活用し改善を図る。
- 教員の授業力向上に関する取り組み
 - ・校内の若手教員研修会(年間30回実施)月1回のミドルリーダー研修会を実施した。定着しつつある。
 - ・毎週の学習計画を確認し、管理職が定期的に授業観察を行い、授業力向上に働きかける。授業観察後は「アドバイスシート(別紙資料)」を渡し、校長が指導助言を行うとともに、授業力向上へとつなげた。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

- 連携の推進と円滑な接続を目指す。
 - ・幼保小の連携は、谷在家保育園と足立このみ保育園との連携を行う。また小中の連携は、鹿浜菜の花中、鹿浜五色桜小、北鹿浜小、鹿浜西小と連携を行う。教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを計画的に実施することができた。保育園との連携においては、校長が両保育園に出向き、次年度、1年生に入学する園児の保護者向けに子育て講演会を行うことができた。(谷在家=1月21日、足立このみ=2月27日)

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

- 「あいさつ、返事、靴そろえ」
 - ・あいさつに関しては、特に6年生が積極的に取り組み、活性化を図ることができた。「ワンストップ挨拶」を児童に呼び掛け、成果を挙げた。しかしまだ十分とは言えず、今後も継続した指導が必要である。
 - ・教室では、学習ルールの基本として「はい、立つ。～です」を共通し、各学級で実践してきた。その結果、丁寧な言葉遣いを意識できる児童は増えてきたものの、十分定着しているとは言い難い。継続した指導が必要である。
 - ・靴そろえに関しては、各担任も目を配るとともに、各学級で係児童も管理する等、すすんで実践する姿が見られた。今後も継続していく。
 - ・授業観察時に道徳の授業を行うよう働きかけることや、年間30号発行した「校長室便り(校長から職員に向けた情報紙)」で特別支援教育や道徳的な内容を扱うことを通して、教員の道徳教育に関する意識に変容が見られた。
 - ・道徳授業地区公開講座講演会において、通年でご指導をいただいている道徳の講師に来ていただき、保護者、地域の方々向けに、講演会を行う。模擬授業を行い、実際の道徳の授業がどのようなものかを体感していただく。またその講演会の中で、道徳の教科化についても触れ、浸透を図る。
 - ・なかよし学級と通常学級との交流活動、他校の特別支援学級との交流行事を行う。
 - ・校内俳句コンクールを2回実施し、毎回、校長賞、副校長賞、鹿一小を選出する。
 - ・地域の昔遊びや伝統文化に関する授業を行う。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- 登校時の「あいさつ運動」には、PTA 会長、各学年の PTA の皆様、パパズ（父親の会）にも積極的にも協力いただきました。子供たちのマナー向上だけでなく、安心・安全な学校づくりにも効果的な取り組みとして、大きな成果を挙げています。
- 谷在家、押部町会の交通安全運動、祭礼、餅つき会、P T A「鹿一村祭り」など、子供たちのために様々な活動を行ってくださり、いつも大変感謝しております。
- 運動会や展覧会、音楽・学芸的発表会などにも、大変多くの方の参観をいただき、感謝申し上げます。学校公開や授業参観に関しても、積極的にもご参加いただき、ありがとうございます。子供たちの日常の様子についても、より多くの方にご覧いただきたいと思います。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- 学校の様々な活動の様子について発信しているホームページとブログは、11月末現在42702アクセスを記録しました。宿泊行事（6年日光自然教室）の際には、1日に4956アクセスがあり、これは本校ブログ開設以来の新記録でした。日頃より多くの方々に応援していただいていることに大変感謝致します。今後も積極的な情報発信を行い、学校からの情報が保護者や地域にとってより身近なものとしていくよう努力してまいります。